

「特別の教科 道徳」についての 小・中学校教員二 ーズ調査

著者	松田 憲子, 土田 雄一
雑誌名	神田外語大学紀要
号	31
ページ	289-311
発行年	2019-03
URL	http://id.nii.ac.jp/1092/00001597/

「特別の教科 道徳」についての 小・中学校教員ニーズ調査

松田 憲子¹

土田 雄一²

要 旨

本研究は、「特別の教科 道徳」に関するニーズを把握するため行った「道徳の教科化にむけての小・中学校教員のニーズ調査」の経年調査（2018 年 6～8 月実施。有効回答 817 名）である。調査内容は、1) 授業で難しい点；2) 道徳教育で育てたい力；3) 授業力を高めるために；4) これからの道徳授業；5) 教職課程の科目への期待（自由記述）である。各々について学校種、経験年数についての比較と、教科化前後（中学校は直前）の意識変化を調べた。1) 学校種による課題意識項目の相違；2) 両種とも「善悪の判断、自律」「親切、思いやり」の順で選択；3) 両種とも「達人の授業参観」「学級経営の充実」で選択；4) 前回調査の因子の変化；5) 具体的な指導方法を求める等の結果が得られた。

キーワード：特別の教科 道徳、教科化、教員、ニーズ調査、教職課程

¹ Noriko MATSUDA 神田外語大学

² Yuichi TSUCHIDA 千葉大学

1. 問題

2015 年 3 月学習指導要領が一部改正され、小学校で 2018 年度より「特別の教科 道徳」がスタートした。中学校でも 2019 年度より完全実施となる。1958 年「道徳の時間」として特設された道徳が 60 年の時を経て教科化され、検定教科書を使用した「道徳科」が始まったのである。

作田・中山（2016）は、道徳を教科化することで、児童生徒の意識が変わることや授業を行う教師の児童生徒への支援する意識が高まり、道徳に対する工夫改善が期待できるとしている。一方、土田（2018）は、教科書を活用した道徳科のシナリオとして、道徳授業の充実と形骸化の 2 つの可能性を指摘している。

小柴・武田・村瀬らが実施した「道徳の教科化にむけての小・中学校教員のニーズ調査」（2017）では、「道徳の授業をする上で難しい点」として、小学校では「発問」「意見の交換」「指導方法」の順だったが、中学校では「資料を探す」「指導方法」「発問」の順である等、学校種によるずれが明らかになった。また、「これからの道徳の授業について」では回答を因子分析し、「多様なアプローチ」「ねらいにせまる授業」「メディアの活用」の 3 因子を得ている。

「道徳科」がスタートした現在、小学校教員は道徳の授業についてどのような意識をもっているのだろうか。また、完全実施を次年度に控えた中学校教員はどうか。前述の小柴・武田・村瀬らの調査（調査期間：2016 年 7 月～8 月）との意識の変化はあるのだろうか。

そこで、本研究では、小柴・武田・村瀬らの調査（以下、前回調査と記す）と同様の質問紙調査を行い、現時点での小中学校教員の「特別の教科 道徳」への意識や課題、ニーズを把握するとともに、前回調査の結果との比較から道徳の教科化に対する影響を調べる。いわば、「道徳の教科化にむけての小・中学校教員のニーズ調査」の経年調査である。調査結果をもとに、今後の大学での教職課程や道徳教育等の授業改善や教員研修改善の一助としたい。

2. 目 的

本研究は、「特別の教科 道徳」に関して2年前と同様の調査を行い、「特別の教科 道徳」に関して小中学校教員の現時点のニーズと課題を把握するとともに、前回の調査と比較し、教科化による影響を調べることを目的とする。

3. 方 法

3-1 調査対象者および調査時期・方法

本調査対象者は、2018年6～8月に悉皆研修を主とした各研修に参加した小・中学校、特別支援学校教員890名（小学校443名、中学校400名、特別支援学校47名）である。調査方法は、質問紙を研修会で配布し説明後実施、回収を行った。調査用紙から、1)校種、職種、性別、経験年数、学校の規模などに欠落のあるもの、2)調査用紙の設問で未記入の設問があったもの、何れかに該当した調査用紙をのぞき、前回調査と比較のため小中学校教員の817名（小学校419名、中学校398名）を分析対象とした。

3-2 本調査質問紙の構成

本調査は、前回調査の質問紙の構成に基づきつつ、「特別の教科 道徳」が小学校で導入されたことから質問項目を精査し作成したものである。A3版両面印字の質問紙は4部構成であり、具体的内容は、調査用紙の冒頭に調査の目的、倫理面、連絡先を明記し、第Ⅰ部は1-1)学校種；1-2)職種；2)性別；3)経験年数；4)担当する教科（小学校では最も関心が高い教科）；5)学校規模である。第Ⅱ部“現在の道徳教育”は、1)“授業をするうえで難しい点”（3つ選択）；2)“子どもたちに育てたい力”（5つ選択）；3)“道徳の授業を高めるために必要なこと”（3つ選択）からなる。第Ⅲ部、1)“これからの道徳授業について”は34項目について、2)“道徳授業の躰き傾向”では自分自身の道徳授業についてそれぞれ5段階で回答を求めた（Appendix3参照）。なお“道徳教育の躰き傾向”

については、今回の独自の項目であり、分析については別な機会に行う。3) “大学教育に期待すること”(自由記述)は教職課程の道德科目の中で、どのような指導や内容を期待するかを質問した。

4. 結果と考察

調査の結果を示していく。本調査では、前回調査同様、教員の学校種、性別、経験年数等について尋ね、属性による回答の違いをみる。なお今回の研究の目的および前回の結果との比較のため、属性については校種と経験年数を中心に分析していく。また、教員の属性別に回答分布の違いを見る場合には、属性×項目のクロス表を作成し、カイ二乗検定を行った。以下で「有意に高い／低い」という場合、それはカイ二乗検定の結果のことである。

4－1 調査対象者の概要

調査対象者の学校種・経験年数を Table1、2 に示す。経験年数については前回調査と比較するため、「10 年未満」と「10 年から 20 年」「20 年から 30 年」「30 年以上」を合わせた「10 年以上」とに 2 分した。

Table1. 学校種		
	人数	割合
小学校	419	51.3%
中学校	398	48.7%
合計	817	100.0%

Table2. 経験年数		
	人数	割合
10 年未満	356	43.6%
10 年以上	461	56.4%
合計	817	100%

4-2 道徳の授業をする上で難しい点

「道徳の授業をする上で、難しいと思う点はあることですか」という質問への回答は Figure1 の通りである。難しい項目は、多い順に、「発問」「指導方法」「終末（まとめ）」である。上位 3 項目はどれも指導技術・方法に関することであり、教員が授業の具体的な方法に難しさを感じていることがわかる。

質問に対する回答と教員の属性の関係についてみていく。学校種別に示したのが Figure2、経験年数別に示したのが Figure3 である。

Figure2 をみると、「教材を探す」「ねらいの設定」という項目が中学校で有意に高い一方、「教科書の活用の方」「終末（まとめ）」は小学校が有意に高い。

小学校では教科化が完全実施され、検定教科書を使用し、「主体的・対話的」な道徳授業を目指して授業が行われている。どのように教科書を活用するのかに

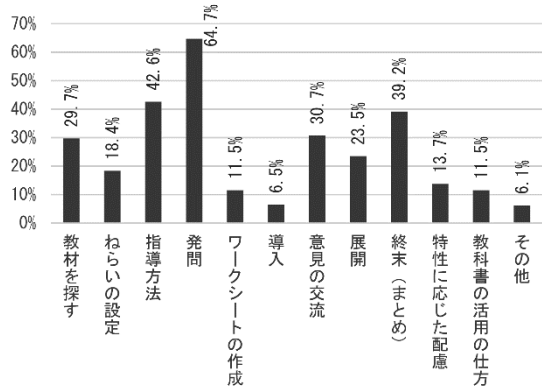


Figure1. 道徳授業をする上で難しい点（全体）

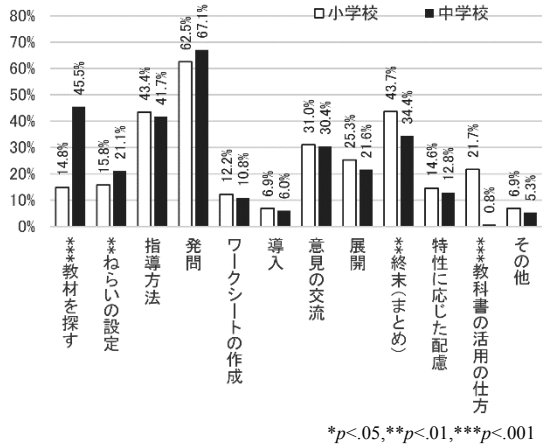
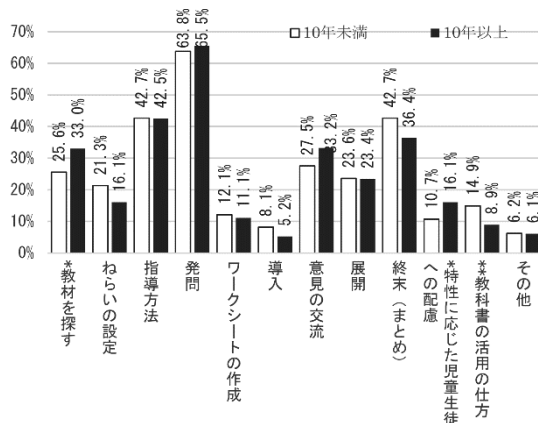


Figure2. 道徳授業をする上で難しい点（小・中学校の比較）

課題意識をもつ小学校と、教材を探すこと自体に難しさを抱える中学校の意識差がみえる。さらに授業の構成でも、「考え議論する道徳」授業を進める中で、小学校では子どもたちの多様な意見をどのようにまとめるかに難しさを感じ、中学校では教材やねらいの設定など授業をの構成そのものに難しさを感じていると考えられる。

経験年数別ではどうだろうか。「教科書の活用の仕方」では経験年数10年未満の教員が有意に高く、「特性に応じた児童生徒への配慮」「教材を探す」の項目



* $p<.05$, ** $p<.01$, *** $p<.001$

Figure3. 道徳授業をする上で難しい点（経験年数別の比較）

では10年以上の教員が有意に高くなっている。これは経験年数が高くなるほど、独自の教材を求めているとも考えられる。また「特性に応じた児童生徒への配慮」は、経験年数が高くなるほどクラスに様々な児童生徒が存在していると推測されるが、明確な分析は難しい。

前回調査と比較してみる。なお、前回調査の具体的数値が不明であることから、相対的な比較となるが、選択率の順位を中心に分析する。全体の傾向はほぼ同様であるが、今回「終末」の順位が上がり（5位から3位）、「意見の交流」が下がった（3位から4位）。学校種別では中学校に変化が見られた。中学校で今回1位の「発問」は前回3位である。また前回調査では中学校は「資料（教材）を探す」が1位だった。しかし、今回は1位から3位まですべて具体的な指導技術・方法に関するものであり、中学校では教科化を次年度に控え、どのように授業をする

か、関心が高まっていると考えられる。

4-3 子どもたちに育てたい力

質問項目は前回調査の質問紙に合わせ、学習指導要領（2015）に示す道徳の内容項目のうち、小学校と中学校の内容を合わせて整理した 20 項目である。ただし、前回調査では「善悪の判断、自律、正直、誠実、自由と責任」「節度・節制」と分けていたが、今回は、内容項目の性質を考え、「善悪の判断、自律、自由と責任」「正直、誠実、節度、節制」とした。「あなたは、道徳教育で、子どもたちにどのような力を育てることが重要だと考えますか」という質問について、全体の回答を示したのが Figure4、学校種別に示したのが Figure5、経験年数別に示したのが Figure6 である。

Figure4 から全体の傾向を見ると、「子どもたちに育てたい力」は、選択率の高い順に「善悪の判断、自律、自由と責任」「親切、思いやり、感謝」「生命の尊さ」の順である。Figure5 の学校種別でも順位は同じである。これは小学校においても中学校においても、子どもたちが身につけなければならない基本的な内容として重視していることがわかる。

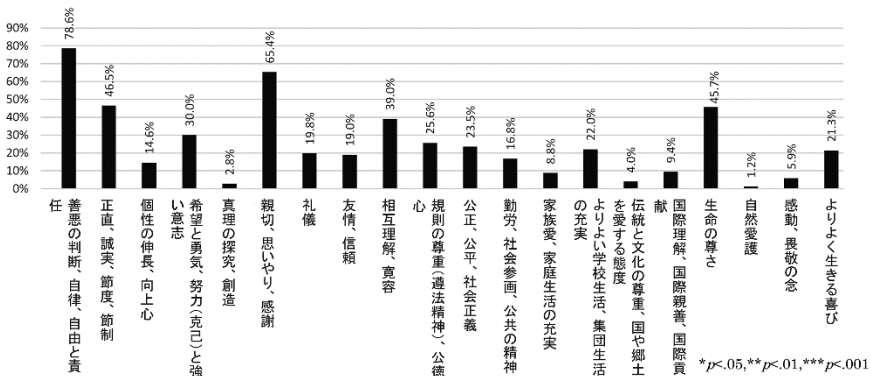


Figure4. 子どもたちに育てたい力（全体）

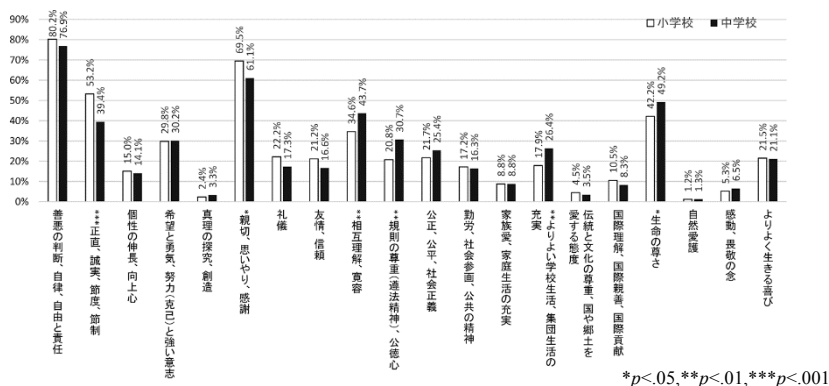


Figure5. 子どもたちに育てたい力（学校種別）

学校種による違いを有意差のみられた項目からみる。「正直・誠実・節度・節制」「親切・思いやり・感謝」という項目は小学校が有意に高い一方、「相互理解・寛容」「規則の尊重（遵法精神）、公徳心」「よりよい学校生活」「集団生活の充実」「生命の尊さ」は中学校が有意に高い。これらの結果から、小学校では内容項目の A「主として自分自身に関わること」 B「主として人とののかかわりに関すること」が教員の育てたい力であり、中学校は C「主として集団や社会とののかかわりに関すること」 D「主として生命や自然、崇高なものとののかかわりに関すること」を育てたい力として考える傾向がある。これは前回調査でも同様で、小柴ら（2017）は教員が子どもの発達段階を考慮して育てたい力を意識していると考察していることと重なる。

Figure6 から経験年数別では「親切・思いやり」「礼儀」「友情・信頼」の項目では 10 年未満が有意に高く、「規則の尊重」「生命の尊さ」「公正公平」の項目は 10 年以上が有意に高い。経験年数 10 年未満では子どもたち個々の、10 年以上では集団とののかかわりに重点を置く傾向がみられる。

前回調査との比較をみる。変化が見られたのは「正直・誠実・節度・節制」であるが、これは前述したように項目の分類の仕方の影響が考えられる。それ以外

「特別の教科 道徳」についての小・中学校教員ニーズ調査

では前述したように同様の傾向である。これらの結果から、「特別の教科 道徳」となっても、教員が子どもたちに育てたい力に変わりがないといえる。

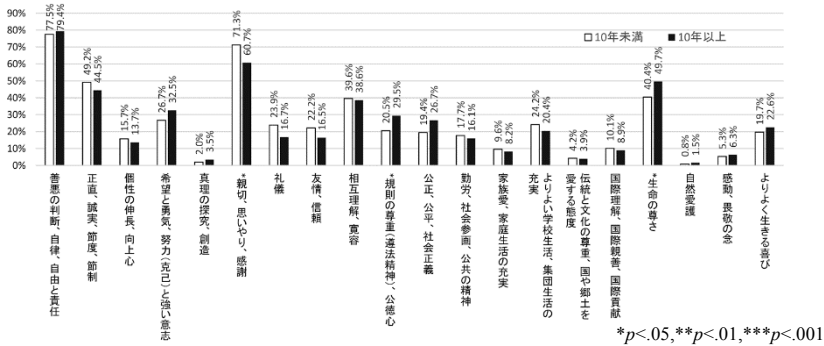


Figure6. 子どもたちに育てたい力（経験年数別）

4-4 道徳の授業力を高めるために必要なこと

「教師が道徳の授業力を高めるためにはどのようにしたらよいでしょう」という質問への全体の回答を Figure7 に示す。全体として回答数の高い順に「道徳の達人などの授業参観をする」「学級経営を充実させる」「道徳の公開研究会に参加する」の項目である。

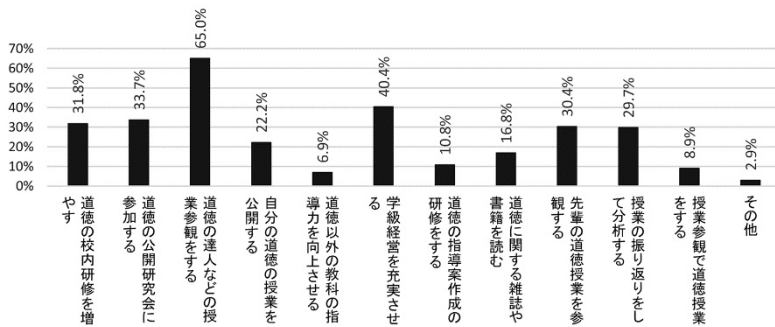
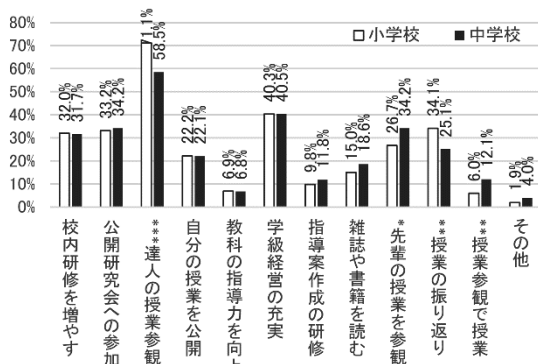


Figure7. 道徳の授業力を高めるために必要なこと（全体）

この結果から、教員は道徳授業についてのモデルとなる授業を必要としていると考えられる。また最も選択率の低い回答は「教科の指導力を向上」であり、教員は道徳の授業に特有の難しさを感じていると考えられる。つまり教員は道徳の業に他の教科とは異なった難しさを感じ、具体的な授業をイメージできるモデルとなる道徳授業を求めているのではないだろうか。

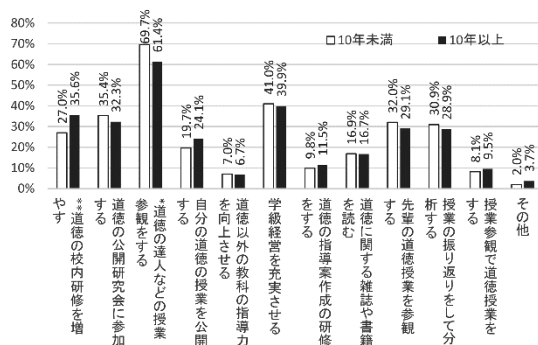
学校種別にみていく。「達人などの授業参観をする」「授業の振り返りをして分析する」の項目が小学校で有意に高く、「先輩の授業を参観する」「授業参観で授業をする」の項目は中学校で有意に高い。小・中学校とも達人や先輩の授業などモデルとなる授業を求めているが、中学校では校内で授業を参観したり、授業参観を活用したりするなど、日常の授業を生かして授業力を高めようという傾向がみえる。

経験年数別では、「達人などの授業参観」の項目では10年未満が有意に高く、「道徳の校内研修を増やす」の



* $p<.05$, ** $p<.01$, *** $p<.001$

Figure 8. 道徳の授業力を高めるために必要なこと（学校種別）



* $p<.05$, ** $p<.01$, *** $p<.001$

Figure 9. 道徳の授業力を高めるために必要なこと（経験年数別）

項目は 10 年以上が有意に高い。経験年数が少ない場合には具体的なモデルとなる授業を、経験年数が多くなると知識や理論を求めていることが推察される。

順位をもとに前回からの変化をみると、校種別で中学校の「学級経営の充実」の項目で変化がみられた。前は上位 3 項目外だったが、今回は 2 位と選択率が高かった。相対的な比較ではあるが、学級経営にこれまでよりも中学校では意識が向いてきたと考えられる。

4－5 これからの道徳の授業について

「これからの道徳授業についてどのように考えますか」の問いは、34 項目で質問し、「そう思わない」から「そう思う」の 5 件法で回答を求めた。なお前回調査の質問項目から、小学校では教科書を使用しているため、『『私たちの道徳』を使う』を削除した。

(1) これからの道徳授業についての因子分析

回答の結果について最尤法プロマックス回転で因子分析を行い、因子を求めた。負荷量が 0.3 未満の 2 項目（8,29）を除いた 32 項目で再度因子分析を行い、さらに 2 因子に関わる項目（26, 12, 31, 11, 21, 34, 10）を削除した 25 項目で因子分析を行った結果が Table3 である。前回調査でも分析により 3 因子を得ているが、教科化が始まり、教科書の導入、通知表等への評価が始まったことで因子の変化が予測されるため、再度同じ方法で分析を試みた。

第 1 因子は 8 項目で構成されており、「ねらいにせまる発問」「安心感のある学級経営」「ねらいの意識」「教材提示の工夫」など、授業を構成する基本的な要素の項目が高い負荷量を示していたので「授業の構成」と名付けた。第 2 因子は「保護者との協力」「教科や総合・特活との連携」「現代的課題を取り上げる」等、道徳科の特質を生かす要素が高い負荷量を示したことから「道徳科の特質を生かす指導」、第 3 因子は「道徳番組を使う」「インターネットで教材を作成」「映像

教材の活用」等、多様な教材に関わる項目の負荷量が高いことから「多様な教材」と名付けた。

Table3. 「これからの道徳の授業について」プロマックス回転後のパターン行列

パターン行列^a

	因子		
	1 授業の構成	2 道徳科の特質を生かす指導	3 多様な教材
2 ねらいにせまる発問	.972	-.210	-.004
3 安心感のある学級経営	.853	-.101	.024
27 ねらいの意識	.652	.201	-.139
1 教材提示の工夫	.650	-.179	.246
14 成長を重視した評価	.548	.165	-.079
24 実態を踏まえた授業	.503	.292	-.115
7 板書の工夫	.350	.268	.052
15 討論を取り入れる	.329	.263	-.008
20 保護者の協力	-.118	.753	-.110
23 テーマを決めた重点的な学習	-.116	.591	.097
19 系統性（発達）を意識	.166	.562	-.074
9 教科や総合・特活との連携	.083	.518	.014
16 複数時間を繋げた指導	-.132	.468	.164
32 現代的課題を取り上げる	.016	.457	.115
25 問題解決的な授業	.095	.416	.059
28 役割演技を入れる	.131	.409	.049
22 情報モラルの指導	.228	.389	.114
13 いじめ問題等への対応	.096	.385	.017
30 担任以外の教職員の参加	.107	.351	.085
4 道徳番組を使う	-.050	-.181	.768
17 インターネットで教材の作成	-.005	.101	.559
18 ICTの活用	-.030	.177	.528
33 映像教材の活用	.128	.161	.475
5 ウェビング等指導方法の活用	.010	.139	.436
6 エンカウンターやスキル学習の活用	.021	.231	.383

因子抽出法：最尤法

回転法：Kaiser の正規化を伴うプロマックス法

a. 6 回の反復で回転が収束しました。

前回調査の因子「多様なアプローチ」「ねらいにせまる授業」「メディアの活用」(Appendix1 参照) との変化をみる。今回の第 1 因子「授業の構成」は前回の第 2 因子「ねらいにせまる授業」と項目が重なる。しかし、前回「ねらいにせまる授業」の「系統性（発達）を意識」、「板書の工夫」等の項目は、今回第 2 因子「道徳科の特質を生かす指導」である。また第 2 因子「道徳科の特質を生かす指導」は、前回の第 1 因子「多様なアプローチ」と重なる項目が多いが、「調べ学習を取り入れる」「学級の人間関係を取り入れる」「校外の体験学習」等は今回除外項目となった。

これらのことから、今回の因子では前回に比べて授業を構成する要素である項目と、道徳科という特質に関わる項目に分かれたと考えられる。また第 3 因子「多様な教材」は、前回の「メディアの活用」と重なるが、「道徳番組を使う」「ウェビング等指導方法の活用」等が加わった。教員の道徳教材をこれまでよりも広い視野から模索しようとする傾向がみえるのではないだろうか。

(2) 3 因子とそれぞれのカテゴリーとの比較

3 因子「授業の構成」「充実のためのアプローチ」「多様な教材」をもとに、因子ごとの平均を、「校種による違い」で比較した結果を Figure10、「経験年数による違い」で比較した結果を Figure11 に示した。

校種による違いをみると、小・中学校とも同様の傾向であった。「授業の構成」の平均点は 4.5 を上回り、高い数値となり、教員が道徳の授業構成を意識していることがわかる。「充実のためのアプローチ」「多様な教材」はほぼ同様の値であった。経験年数による違いをみても、同様の傾向で差は見られなかった。つまり「これからの道徳の授業について」の意識に、校種による違い、経験年数による違いは認められず、道徳についての意識が等しくなってきたとみてよいだろう。

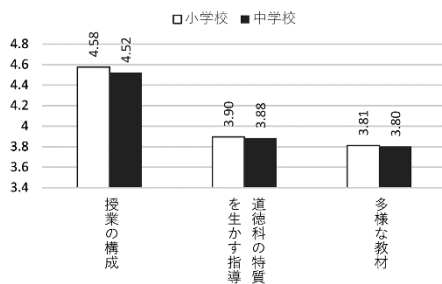


Figure10. 校種による違い

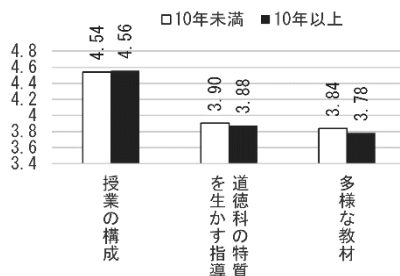


Figure11. 経験年数の違い

4-6 大学の教職課程の道德教育の科目への期待

大学の教職課程の道德教育の科目に関して、自由記述で調査を行った。

(1) カテゴリー別回答数

前回調査と同様のコード表 (Appendix2 参照) を用いて分類し、それぞれのカテゴリーの自由記述の回答者数に占める割合を Figure12 に示す。

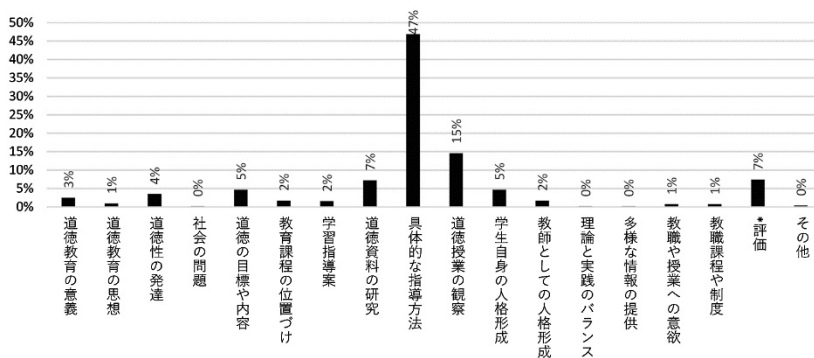


Figure12. 大学の教職課程の道德科目への期待 (自由記述者回答数に占める割合)

小学校の回答数は 269 人（小学校の 64%）、中学校の回答者数は 245 人（中学校の 62%）であった。

最も多いのが「具体的な指導方法・多様な指導方法」に関する記述で、これは自由記述回答者の 47%と記述者の半数近くを占めた。次が「道徳授業の観察や実体験」（15%）、さらに「道徳資料の研究や開発」（7%）「評価」（7%）となっている。大学の授業にも道徳の具体的な指導方法等、すぐに活用できるような授業内容を求めていることがわかる。

学校種別ではどうだろうか。回答の結果を Figure13 に示す。

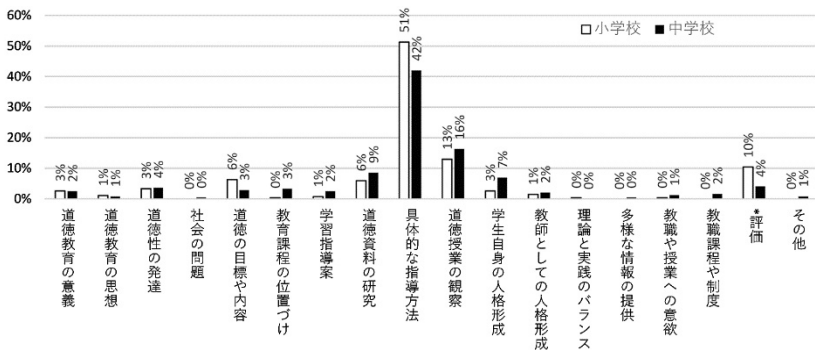


Figure13. 記述者の中での大学の教職課程の道徳科目への期待（学校種別）

校種別に多い傾向をみると、小・中学校とも「具体的な指導方法・多様な指導方法」に関する記述が最も多く、小学校では 51%、中学校では 42%が記述している。次に多いのが「道徳授業の観察や実体験」で、小学校 13%、中学校が 16%となっている。「具体的な指導方法」では小学校が中学校よりも高く、「道徳授業の観察」では中学校のほうが高い傾向がうかがえる。これまでの中学校の分析からみても、実際の授業をどうするのか、具体的なモデルを求める傾向があったことと重なる。また「評価」に関して小学校教員の大学授業への必要感が高い傾向

がわかる。道徳科が始まり、小学校教員の評価への関心は高い。

前回調査の結果と比較してみる。前回も「具体的な指導方法・多様な指導方法」に関する記述が小・中学校とも最も多かった。相対的な比較ではあるが、前回より今回の数値が増えている。同様に中学校の「道徳授業の観察や実体験」も増えている傾向がある。つまり、前回よりもさらに道徳の授業の実践的な指導に向けて大学の授業が求められているといえるだろう。

(2) カテゴリー別回答例

カテゴリー別回答例を Table4 に記す。

自由記述には「実践的な」「具体的な」「模擬授業」等が多数みられ、大学の道徳授業について具体的な指導を求めていることがわかった。また「教科書」「評価」等教科化にかかわる記述も多い。教科化が実施されたことで大学授業へ求める内容への影響が出ていると考えられる。

Table4 カテゴリー別回答例

カテゴリー	回答例
道徳教育の意義	なぜ道徳授業をやるのかという意義を理解して学んでほしい。 授業の技術面に終始することなく、広い視野で道徳教育を考える。
道徳の目標や内容	「特別の教科 道徳」のねらい（文言だけでなく、中身、意味をきちんと理解できるようにする） 内容項目を理解したうえで、授業の目的をしっかりとって授業展開できる力
教育課程の位置づけ	学級経営と道徳教育、それぞれのかかわりが互いに影響を与える 子どもとの人間関係ありきの授業なので、挨拶、目を見て話す、ほめ方等、かわかり方の基礎を学ぶ
学習指導案の書き方	指導案の書き方。指導書通りに授業を実施する教員が多いので教材研究、指導の仕方等指導案の作成を通して学ぶ。
道徳資料の研究や開発	教科書だけでなく、新聞やニュースなどを教材にし、発問や流れを作る指導。 各学年の目標に沿って、どのように教材を選べばよいか。 教科書を使った授業の練習
具体的な指導方法・多様な指導方法	多くの教材提示や発問内容、授業の展開方法などを具体的に指導してほしい。 終末で様々に出てくる意見を、教師の価値の押し付けにらずにまとめる方法。 子どもが多面的多角的に考えるための思考ツールの有効な活用。 模擬授業を行わせる。ねらいを明確にして指導法王を考えさせる。

「特別の教科 道徳」についての小・中学校教員ニーズ調査

道徳授業の観察や 実体験	実際に良い授業を見たり、自分たちで指導案作りをしたり、授業を見合ったりするもの。
	実践的な授業の体験とフィードバック。教科書を深める教材開発。
学生自身の人格形成	上手な授業を参観し、発問の仕方や授業の流れを知り、それから自分たちで授業を考える。
	様々な経験を語り合い立場の違いの人に励まされたり共感したりする。
	礼儀や人間関係、上下関係等をしっかり身につける。道徳は人と人のかかわりで成り立つので。
教師としての 人格形成	ボランティア活動。討論/議論。多様な価値観の涵養。
	道徳教育の向上には教えるほうの道徳心を高める必要がある。
教職課程や制度	全ての教科において、基本となる授業づくりを指導してほしい
	特に教育学部では道徳専攻を設けて専門的に行うほうがよい。近年、教育学、教育心理学やゼロ免課程が廃止の傾向になっているが、道徳には学級経営や発達段階等が重要。
評価	評価の仕方や指導法について学ぶ。評価の文例がないと厳しい。
	どうやって評価するのかをはっきりさせてほしい。

5 総合考察

5-1 「特別の教科 道徳」実施による教員の意識の変化

小学校では道徳科がスタート、中学校では次年度から実施という時期においての教員の意識を考察する。

今回の調査では、教科書が導入された小学校では「発問」「指導方法」「終末（まとめ）」の順であった。次年度（31年度）から教科書を使用する中学校でも「教材探し」を除くと同様の結果であり、「発問」への課題意識がもっとも高い。道徳の授業では、「発問」の重要度が高く、「多面的・多角的に考える」や「考え議論する道徳」、「主体的・対話的で深い学び」につながる道徳授業をどのように構成したらよいのか悩んでいる教員の現状がみえる。千葉市教育センターが千葉市内小中学校を対象に実施した道徳教育の課題や不安の調査（2016）によると、道徳授業で困っていることの第1位は「発問」であり、今回調査と同様の結果であった。特に、教職経験年数が「0～5年」の教員の「困っている」回答が多く、経験年数が増すにつれ、減る傾向があった。小学校の若年経験者が道徳授業において困っていることは「発問」「表現活動」「話し合い」「板書」順であり、中学校では「発問」「話し合い」「板書」の順であった。

前回調査では、小学校では同様の傾向であったが、中学校では「教材探し」

「指導方法」「発問」の順であり、今回の調査で、「発問」に対しての課題意識が高まったことがわかる。次年度より、教科書が導入されることを踏まえて、「教材探し」の割合が低くなったのは理解できる。さらに、道徳授業を実質的に進めていくと指導方法以上に「発問」の重要性に改めて気づいた教員も多かったのではないかと推察する。既存の教材活用において「発問」が重要な役割を果たすことがより顕著になったのではないだろうか。

さらに、今回調査で「10 年未満」と「10 年以上」の経験年数による差がほとんどなくなり、小中学校教員の意識のずれも前回調査に比べ小さくなっていることがわかった。これは、道徳の教科化に伴い、「これまでの道徳授業」を見直し、多面的多角的に物事を考え、主体的対話的で深い学びのある道徳授業への改善が「10 年以上」の教員にも再度、授業を見つめ直すきっかけとなったのではないだろうか。

5-2 大学への期待

今回の調査から教員は大学に対して、より実践的な授業を求めていることがわかった。「道徳授業観察」「模擬授業」「具体的な指導方法」「実践例」等を求める記述が多かったことも実践的な授業を表している。一方で、文部科学省は、教職課程をもつ大学に対して「再課程認定」を行い、「コアカリキュラム」を示して、指導すべき内容をより明確にした。本学でも「道徳教育の指導法」において指導案の作成や指導法の理解、模擬授業の実施等を充実させ、より実践的な指導ができる教員の養成を目指した内容に改善している。

このように学校現場でも文部科学省でも「実践的指導力のある教員の養成」を大学に強く求める傾向があり、特に、これまでモデル的道徳授業の体験が少なかった学生にとっては大学での授業を通して、指導力を身に付ける必要がある。教科化によって、これまで以上に大学の授業の工夫改善が求められている。

5-3 教員研修の実施と改善

今回調査で「これからの道徳授業について」因子分析の結果「授業の構成」「道徳化の特質を生かす指導」「多様な教材」の3因子が明らかになった。

そこで、これからの教員研修においてもこれからの結果をふまえた研修（特に校内）を実施すべきであろう。

松田・土田・尾高・岡田・佐瀬（2017・2018）は、若年経験者教員の道徳授業力を向上させるために、モデルとなる教材と指導方法を活用した授業を実施させ、道徳授業の流し方・発問等を成功体験を通して学ぶことを提案している。校内指導者の事前の助言等により成果があったと報告されている。

今後の教員研修も「道徳授業の基本構成」について、若年経験者以外も、もう一度原点に立ち返って研修をする必要があるのではないかと。今回の調査はそのニーズが高まっていることを証明している。

参考文献

- 小柴孝子・武田明典・村瀬公胤（2017）. 道徳の教科化にむけての小・中学校教員のニーズ調査. *神田外語大学紀要*第29号. 507-529.
- 文部科学省（2018）. 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科道徳編.
- 作田澄泰・中山芳一（2016）. 道徳教科化に向けた今後の新しい教師教育と学校教育の在り方に関する考察—総合単元的な道徳授業カリキュラムから考える新の道徳教育の検証—. *岡山大学教師教育開発センター紀要*. 6, 1-10.
- 土田雄一（2018）. 「道徳の教科化」元年 授業の質的充実課題に. *日本経済新聞* 2018.3.12（朝刊）
- 千葉市教育センター（2016）. 千葉市道徳教育の課題把握とその解決にむけて—教職経験年数別、校務分掌別調査結果から—. *千葉市教育センター研究紀要*第24号. 9-16.

中央教育審議会（2014）. 道徳に係る教育課程の改善等について（答申）. 文部科学省.

東京学芸大学「総合的道徳教育プログラム」推進本部（2012）. 道徳に関する小・中学校教員を対象とした調査—道徳の時間への取組を中心として（結果報告書）.

松田憲子・土田雄一（2016）. 道徳授業における若年経験者教員の躰き傾向分析. *千葉大学教育実践研究第19号*. 1-10.

松田憲子・土田雄一・尾高正浩・岡田直美・佐瀬久代（2017）. 若年経験者教員の道徳授業改善への取り組みⅠ—「道徳モデル授業プラン」の開発と実践—. *千葉大学教育学部研究紀要第66巻第1号*. 309-315.

松田憲子・土田雄一・尾高正浩・岡田直美・佐瀬久代（2018）. 若年経験者教員の道徳授業改善への取り組みⅡ—「道徳モデル授業プラン」の開発と実践—. *千葉大学教育学部研究紀要第66巻第2号*. 285-289.

謝 辞

- ・本研究に際し、千葉県公立小・中学校、特別支援学校、千葉大学名誉教授伏見陽児氏のご協力を得たことに感謝の意を表します。

Appendix1 前回調査「これからの道徳の授業について」
プロマックス回転後のパターン行列

2017「これからの道徳の授業について」 プロマックス回転後のパターン行列				
	因子			
	1 多様なアパ ローチ	2 ねらいに せまる授業	3 メディアの 活用	
12 調べ学習	.741	-.181	-.109	
30 校外体験	.704	-.169	-.006	
11 自治体資料	.516	-.022	.021	
9 他教科連携	.507	.113	-.069	
20 保護者協力	.499	.120	-.097	
8 人間関係	.456	-.082	-.047	
33 性的少数者	.446	.011	.130	
13 現実の問題	.431	.080	.034	
24 テーマ重点	.414	.188	-.019	
10 新聞ニュース	.410	.052	.050	
31 担任以外	.388	.000	.112	
16 複数時間	.376	-.009	.135	
26 問題解決型	.363	.179	-.047	
35 外部講師	.355	.023	.216	
22 情報モラル	.345	.149	.106	
6 心理教育	.322	.153	.070	
28 ねらい意識	.128	.762	.011	
2 ねらい道の発問	-.132	.766	-.058	
1 資料提示	.151	.702	.087	
21 終本の工夫	.023	.587	.030	
25 実態ふまえる	-.009	.576	-.038	
3 子どもの本音	-.042	.516	-.091	
19 巻頭を意識	.125	.490	.035	
7 板書の工夫	.147	.470	-.018	
32 指導要綱	.223	.428	.006	
27 指導規範	.274	.365	-.008	
14 比較しない	.097	.361	.027	
18 ICT提示	-.061	-.087	.913	
17 ICT作成	.035	-.035	.772	
34 映像資料	.038	.137	.475	

Appendix2 自由記述のカテゴリ分類

分類項目	含まれる内容の例
道徳教育の意義	道徳教育の重要性 必要性 有効性 人間形成の基礎・根幹 道徳教育のよさ
道徳教育の思想・歴史・外国の様子	道徳の歴史 外国の道徳教育 共生 グローバルな視点 宗教・哲学・人文学との関係
道徳性の発達・子どもの課題	子どもの心の発達 心や成長の課題 子どもの心理 自尊感情 子ども理解 障害の理解 心の変化・変容
社会の問題	社会問題 人権教育 平和の問題 人権等の問題 家庭教育 規範意識 公衆道徳 生命尊重 貧困問題 メディア
道徳の目標や内容	内容項目 道徳の実践力 生きる力 善悪 人間として大切なこと 育てたい子ども像
教育課程の位置づけ・全教教育活動	教科書との関連や違い 全教育活動で行う道徳教育 体験活動 ポラリアティ活動 生徒指導 人間関係作り
学習指導案の書き方	学習指導案の作成方法 道徳の時間の指導計画
道徳資料の研究や開発	効果的な資料 資料の生かし方 資料分析の方法 心のノート 資料(教材)探し 教材研究 資料の自作
具体的な指導方法・多様な指導方法	指導法(指導方法) 指導理論 指導技術・技能 実践例 授業の作り方・進め方 展開の方法 板書やノート 模擬授業 グループ活動 授業分析・評価 ロールプレイ エンカウター スキル
道徳授業の観察や実体験	授業観察・参観 教育実習 授業の実施 研究会などへの参加
学生自身の人格形成	学生の道徳性・生き方 社会人としての常識 様々な人・先生への向きかや考え方 学生の人権感覚 学生の心の教育や体験の充実 コミュニケーション能力
教師としての人格形成	子どもを受容する力 教師の専門性 共に歩む様々 教師としての権利 慈愛 やる気 教師(大人)の人権感覚
理論と実践のバランス・違い	シラバスにおける理論面と実践面のバランスの問題
多様な情報の提供	情報の多様な提示 サイトの活用
教職や授業への意欲	教職への意欲 授業への意欲 道徳の好意的受け止め
教職課程や制度	道徳を主眼に 単位数の充実
評価	評価のあり方 評価方法
その他分類が困難なもの	

「特別の教科 道徳」についての小・中学校教師ヒアーズ調査

Appendix3 調査の質問項目

「特別の教科 道徳」に関する教職員のニーズ調査

【小・中学校（部）】に勤務されている方対象です。】 ※質問紙は両面に印刷されています。

「特別の教科 道徳」が小学校では今年度（中学校：31年度）から、スタートしました。しなやかに育つ子どもたちを育てるために、そこに携わっている先生方にお考えいただき、その思いや実践などをお聞かせください。また、道徳教育の推進に必要と思われる教材や、教材の活用方法などについて、ご意見やご質問などをご記入いただき、文下までご連絡ください。よろしくお願ひします。

研究責任者：千葉美子 土浦雄一、神田外語大学 松田麻子
連絡先：〒263-8522 千葉県市川区松戸三町1-33 電話：043-2402923（土田研究室担当）

I あなたの所属やご自身について

1-1 あなたの担当する学校種の番号を書いてください。

①小学校 ②中学校 ③特別支援学校（小学部） ④特別支援学校（中学部）

1-2 あなたの職務の該当する番号を書いてください。

①主任教諭 ②教諭 ③副主 ④その他

2 あなたの担当する性別の番号を書いてください。

①女性 ②男性

3 あなたの担当する教員経験年数（講師も含む）の番号を書いてください。

①10年未満 ②10年～20年未満 ③20年～30年未満 ④30年以上

4 あなたが小学校の場合には、最も関心が強い教科を1つだけ、中学校の場合には、担当する教科を1つだけ選んで書いてください。

①国語 ②社会 ③理科 ④音楽 ⑤英語 ⑥体育・保健体育 ⑦家庭・技術家庭 ⑧外国語・英語

5 あなたが現在担当する学校の児童を教えてください。

①単学級 ②11学級以下（一部複学級あり） ③12～24学級 ④25～36学級以上

II 現在の道徳教育について

1 道徳の授業をする上で、難いと思う点はどこですか。3つ選択してください。

①教材（資料）を採集 ②教材の活用 ③指導方法
④教材の活用 ⑤教材の活用 ⑥教材の活用
⑦教材の活用 ⑧教材の活用 ⑨教材の活用
⑩教材の活用 ⑪教材の活用 ⑫教材の活用

2 あなたは、道徳教育で、子どもたちにどのような力を育てることが重要だと考えますか。以下に学習指導要領（平成29年告示）に示す内容ですが、**全体から特に重視してほしいものを5つ選択してください。**

①道徳の判断、自律、自由と責任 ②正直、誠実、節度、勇気
③道徳の探究、創造 ④道徳の探究、創造
⑤道徳の探究、創造 ⑥道徳の探究、創造
⑦道徳の探究、創造 ⑧道徳の探究、創造
⑨道徳の探究、創造 ⑩道徳の探究、創造
⑪道徳の探究、創造 ⑫道徳の探究、創造
⑬道徳の探究、創造 ⑭道徳の探究、創造
⑮道徳の探究、創造 ⑯道徳の探究、創造
⑰道徳の探究、創造 ⑱道徳の探究、創造
⑲道徳の探究、創造 ⑳道徳の探究、創造
㉑道徳の探究、創造 ㉒道徳の探究、創造
㉓道徳の探究、創造 ㉔道徳の探究、創造
㉕道徳の探究、創造 ㉖道徳の探究、創造
㉗道徳の探究、創造 ㉘道徳の探究、創造
㉙道徳の探究、創造 ㉚道徳の探究、創造
㉛道徳の探究、創造 ㉜道徳の探究、創造
㉝道徳の探究、創造 ㉞道徳の探究、創造
㉟道徳の探究、創造 ㊱道徳の探究、創造
㊲道徳の探究、創造 ㊳道徳の探究、創造
㊴道徳の探究、創造 ㊵道徳の探究、創造
㊶道徳の探究、創造 ㊷道徳の探究、創造
㊸道徳の探究、創造 ㊹道徳の探究、創造
㊺道徳の探究、創造 ㊻道徳の探究、創造
㊼道徳の探究、創造 ㊽道徳の探究、創造
㊾道徳の探究、創造 ㊿道徳の探究、創造

3 教師が道徳の授業を進めるためにどのような点に注意する必要がありますか。次の中から3つ選択してください。

①道徳の授業の進め方を考える ②道徳の授業の進め方を考える
③道徳の授業の進め方を考える ④道徳の授業の進め方を考える
⑤道徳の授業の進め方を考える ⑥道徳の授業の進め方を考える
⑦道徳の授業の進め方を考える ⑧道徳の授業の進め方を考える
⑨道徳の授業の進め方を考える ⑩道徳の授業の進め方を考える
⑪道徳の授業の進め方を考える ⑫道徳の授業の進め方を考える
⑬道徳の授業の進め方を考える ⑭道徳の授業の進め方を考える
⑮道徳の授業の進め方を考える ⑯道徳の授業の進め方を考える
⑰道徳の授業の進め方を考える ⑱道徳の授業の進め方を考える
⑲道徳の授業の進め方を考える ⑳道徳の授業の進め方を考える
㉑道徳の授業の進め方を考える ㉒道徳の授業の進め方を考える
㉓道徳の授業の進め方を考える ㉔道徳の授業の進め方を考える
㉕道徳の授業の進め方を考える ㉖道徳の授業の進め方を考える
㉗道徳の授業の進め方を考える ㉘道徳の授業の進め方を考える
㉙道徳の授業の進め方を考える ㉚道徳の授業の進め方を考える
㉛道徳の授業の進め方を考える ㉜道徳の授業の進め方を考える
㉝道徳の授業の進め方を考える ㉞道徳の授業の進め方を考える
㉟道徳の授業の進め方を考える ㊱道徳の授業の進め方を考える
㊲道徳の授業の進め方を考える ㊳道徳の授業の進め方を考える
㊴道徳の授業の進め方を考える ㊵道徳の授業の進め方を考える
㊶道徳の授業の進め方を考える ㊷道徳の授業の進め方を考える
㊸道徳の授業の進め方を考える ㊹道徳の授業の進め方を考える
㊺道徳の授業の進め方を考える ㊻道徳の授業の進め方を考える
㊼道徳の授業の進め方を考える ㊽道徳の授業の進め方を考える
㊾道徳の授業の進め方を考える ㊿道徳の授業の進め方を考える

III これからの道徳の授業について

1 これからの道徳授業についてどのように考えますか。それぞれ「そう思わない」「思う」「思う程度」の3つを1～5の数字で記述してください。

	1	2	3	4	5
1) 資料（教材）提示の工夫をする					
2) 授業のねらいにそなわれないように授業を工夫する					
3) 子どもの実情に合わせた授業を行う					
4) NIKKなどの道徳番組を使う					
5) ウェビナー、ランキングなどの指導方法を取り入れる					
6) エンカウンターやソーシャルスキルなどの心読習を取り入れる					

「特別の教科 道徳」についての小・中学校教員ニーズ調査

2 これからの道徳授業を充実させる上で、教員が抱えている課題や道徳授業の課題を7つに分けて、最も重要な課題を1つだけ選んでください。その結果を下の表に記入してください。記入の際は、必ず「最も重要な課題」を1つ選び、数値に○をつけてください。

1) 授業内容と教材の質	2) 子どもの意図が強い	3) 「はらい」の意識が強い	4) 子ども同士の見聞の交流が少ない(一問一答の傾向)	5) 導入が長い(展開・終末の時間がなくなる)	6) 教員の話しが長い(多い)	7) ワークシートに書かせすぎる			
1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

3 これからの道徳教育のために大学の教職課程の道徳教育の科目では、どのような改善が必要か、を数値1～5で評価してください。自由に書いてください。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

4 これからの道徳教育のために大学の教職課程の道徳教育の科目では、どのような改善が必要か、を数値1～5で評価してください。自由に書いてください。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

7) 授業を工夫する

8) 学校の人間関係の問題を取り入れる	1	2	3	4	5
9) 各教科と総合的な学習の時間、特別活動等との関連を図る	1	2	3	4	5
10) 新聞記事やニュースなどの報道を使う	1	2	3	4	5
11) 都道府県や市町村などの資料(地図)を使う	1	2	3	4	5
12) 子どもとの関わりを学習などを取り入れる	1	2	3	4	5
13) いじめなどの現象の問題に対応する	1	2	3	4	5
14) 評価では、子どもを比較せずに、いかに成長したかを重視する	1	2	3	4	5
15) 子どもが評価する学習を取り入れる	1	2	3	4	5
16) 1時間ずつだけでなく、授業時間をつなげた指導をする	1	2	3	4	5
17) パソコンやインターネットで教材の作成や資料の収集をする	1	2	3	4	5
18) 授業中の資料提示などにパソコンなどの ICT を使う	1	2	3	4	5
19) 柔軟性(発想)を重視して授業づくりをする	1	2	3	4	5
20) 授業の実施への保護者の協力を得る	1	2	3	4	5
21) 居間の様式の工夫をする	1	2	3	4	5
22) ネット上のルールや情報モラルの指導を実施する	1	2	3	4	5
23) 学期評や月ごとのテーマを決めて重点的な学習をする	1	2	3	4	5
24) 学校の子どもの理解をして、実態を踏まえた授業をする	1	2	3	4	5
25) 問題解決的な授業にする	1	2	3	4	5
26) 子どもが学習状況や道徳性に係る態度を継続的に把握し評価する	1	2	3	4	5
27) おねらいを重視した授業づくりをする	1	2	3	4	5
28) 役割演技(ロールプレイ)などの学習を取り入れる	1	2	3	4	5
29) 校外の体験学習などを取り入れる	1	2	3	4	5
30) 担任以外の教職員も授業に参画する	1	2	3	4	5
31) 道徳の学習指導要領の変更を知る	1	2	3	4	5
32) 性的マイノリティの理解など現代的課題を取り上げる	1	2	3	4	5
33) ビデオ(DVD)などの映像教材を使う	1	2	3	4	5
34) 外部からゲストティーチャーを招いて授業をする	1	2	3	4	5